

秋田循環資源協同組合

秋田循環資源協同組合(佐々木正光理事長)は、県内の小中学校などで不用になった机と椅子計300セットをタイの教育施設に寄贈する。現地で設備が不足していることを知った佐々木理事長が組合を通じて10年ほどかけて集めてきた。大仙市刈和野のリサイクル業・佐々木興業の倉庫で14日、コンテナへの積み込み作業が行われ、組合員らが汗を流した。

コンテナへの積み込み作業を行う組合員や高校生

学習机、椅子タイへ寄贈

佐々木理事長は大曲ロータリークラブ(RC)に所属。同RCをはじめとする大曲地区のRCは、タイのRCとお互い行き来するなど長年交流を続けており、佐々木理事長が「現地の子どものために」と寄贈を発案した。机と椅子は、廃校や買い替えて使わなくなったものを収集。組合員や地区内のRC会員に輸送費などの寄付を呼び掛け、準備を進めてきた。



300セット、大仙で積み込み

い、今回は首都バンコクから西約1000kmのタイ中部ラチャブリ県バンポン地区にある中高一貫校3校と、貧しい子どもが学習のため利用する教育センターに送る。

14日の積み込み作業には、組合員ら8人のほか、タイからの留学生を受け入れた経験がある西仙北高校の野球部員20人が参加。結束した机と椅子を、手際よくコンテナに運

び入れた。

野球部員一人一人が記したメッセージカードも添えており、作業を手伝った野球部の佐々木翔さん(2年)は「カードには「勉強頑張れ、応援してる」と書いた。学習以外にも活用してほしい」と話した。佐々木理事長は「タイの子どもたちの支援に少しでも貢献したいの思いが形になりうれしい。今後も親交を深めたい」と語った。

倉庫内では佐々木理事長(右)らが机と椅子を結束した



机と椅子は18日に秋田港から北海道・苫小牧港経由でタイに送られた後、3月中旬に各施設に配られるという。

(田中倫子)